



実施報告書

プログラミングで豊かな地域づくり

ハッカソンキャンプ in 猪苗代湖畔 こおりやま広域圏アプリ開発

ふくしまプログラミング推進協議会
代表 大久保 仁

御礼のごあいさつ



プレゼンテーションには郡山市の品川萬里市長、地元・横沢地区の三沢利勝区長などが会場を訪れ、参加者を激励しました

拝啓 清秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたびは、「ハッカソンキャンプin猪苗代湖畔 こおりやま広域圏アプリ開発」に、ご協賛など、お力添えを賜り、誠にありがとうございました。

県内外から学生部門5チーム、一般部門5チームの計10チーム、40人の皆さまにご参加いただきました。

圏内17市町村に目を向け、地域の課題解決や経済活性化など元気な地域づくりに向けたアプリ開発に挑戦し、あわせてデジタル人材の育成を図ることができました。

「地域密着型ハッカソン」として17市町村の特産品を入賞および参加賞の賞品として贈ったほか、地元食材をふんだんに盛り込んだ食事で、こおりやま広域圏の食の魅力を実感していただきました。

また、屋外バーベキュー、キャンプファイヤーなど、デジタル人材の参加者同士の交流を図ることができました。

ハッカソン運営にご協力いただいた地元の郡山市湖南町の皆さまに心から感謝申し上げます。 敬具

ふくしまプログラミング推進協議会 会員一同

実施概要

【目的】

- ① ITエンジニアや学生が「こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）」を題材に、地域活性化や課題解決に貢献するアプリ開発のアイデアと技術を競う。
- ② 福島県のデジタル人材育成と交流への貢献を図り、新たな発想を生み出す契機にする。
- ③ 地域密着型ハッカソンとして地元の観光スポットや特産物などに目を向け、魅力を発信する。

【日時】 2023年9月9日（土）～9月10日（日）

【会場】 郡山市少年湖畔の村（郡山市湖南町横沢）

【内容】

「こおりやま広域圏」を題材にしたアプリのプロトタイプを制作。プレゼンテーションで発表。優秀作品を表彰する。

【主催】

ふくしまプログラミング推進協議会 / 共催 郡山市少年湖畔の村

【協賛】

日本マイクロソフト株式会社、NTT東日本福島支店、学校法人国際総合学園FSGカレッジリーグ、JA福島さくら、公益財団法人三菱商事復興支援財団、株式会社福島情報処理センター、株式会社エフコム、福島コンピューターシステム株式会社、新電力福島株式会社、株式会社ティービーケー・システムエンジニアリング

【後援】

郡山市、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、磐梯町、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町、福島県情報産業協会、福島中央テレビ

【タイムスケジュール】

9月9日	午前10時10分～	開会式 主催者あいさつ、参加チーム紹介、ルール説明など
	午前10時20分	アプリ開発スタート
	正午	ランチタイム
	午後1時～	アプリ開発再開
	午後3時10分～	スイーツタイム 国際ビューティ&フード大学校新作スイーツ発表
	午後3時30分	アプリ開発再開
	午後6時30分	バーベキュー交流会
	午後7時20分～	キャンプファイヤーイベント
	午後7時30分～	ハッカソンキャンプ記念コンサート 出演：インザウインド
	午後8時	第1日目終了
9月10日	午前8時30分～	アプリ開発再開
	正午	ランチタイム 湖南高校そば部「湖南そば」
	午後1時～	アプリ開発再開
	午後3時15分	ハッカソンプレゼンテーション 参加チームがアプリ開発の作品を発表
	午後4時30分	スイーツタイム 国際ビューティ&フード大学校新作スイーツ発表 審査会
	午後5時10分	結果発表・表彰
		審査講評 交流会
	午後6時	閉会

ハッカソンキャンプin猪苗代湖畔特設サイト開設(1)

パソコン版特設サイト
トップページ(抜粋)



レンタルサーバーで、CMS「ワードプレス」活用して、2023年6月20日にオリジナルの特設サイトを公開しました。

参加チーム募集の軸として活用しながら、参加を検討しているプログラマーや学生の皆さんに、「こおりやま広域圏」への理解を深める素材を提供し、参加を促す役割を担いました。一般の人も特設サイトを閲覧することで「こおりやま広域圏」への知識を深める機会を提供できるようにコンテンツを工夫しました。

URL <https://kwidearea.fukuprogram.com/>



(1) こおりやま広域圏の魅力に理解を深めるオリジナル動画を掲載

圏内17市町村を代表する桜を撮影した「桜めぐり」動画32編をマップ、解説文とともに掲載。「サイクリングルート」では猪苗代湖一周「イナイチ」ルート、県広域サイクリングルート県中地域を実際に自転車で走行して撮影した動画19編をマップとともに掲載。「ミュージアム訪問」は25施設、「スポーツ×大会・合宿」は28施設、「道の駅」は11施設、「インフラ・拠点施設」は21施設、「公園散歩」は17施設を、それぞれ1件ずつ動画とマップ、解説文、ホームページリンク付きのコンテンツとして制作。動画コンテンツは、合計で153編をアップしました。

(2) こおりやま広域圏の全容が分かるコンテンツ

圏内17市町村の概要、オープンデータ、マスコットキャラクターを画像とともに紹介しました。ふるさと納税の返礼品を把握できるカテゴリも設けました。インプット講座では、こおりやま広域圏について理解を深める講座形式のコンテンツを制作しました。

ハッカソンキャンプin猪苗代湖畔特設サイト開設(2)

スマートフォン版特設サイトトップページ(抜粋)



(3)「資料集」で多彩なデータを提供

圏内17市町村がインターネットで公開している多様な観光資料、、マップなどを集めたカテゴリを設け、アプリ開発のヒント提供に努めました。

(4)「ギャラリー」で画像を提供

特設サイトで紹介したオリジナル動画153編をもとにした画像などのオリジナル画像を「ギャラリー」のカテゴリに集約し、アプリ開発の素材として活用できるように紹介しました。

(5)参加チーム募集への活用

チラシやネット、SNS、新聞広告など、各メディアを活用した参加チーム募集活動で、特設サイトへの誘導を図りました。ハッカソンキャンプin猪苗代湖畔に関心を持った人が、特設サイトの閲覧を通じてアプリ開発へのアイデアやイメージが浮かぶように、情報提供しました。

(6)SEOの実施

Google検索で、検索画面の上位に表示されるように最適化を図りました。

参加チーム募集

参加チーム募集広告（福島民友新聞 7月23日付・2面）

(1) チラシ作成

参加チーム募集のチラシ作成。プリントしたチラシをIT関連企業や教育機関に配布したほか、データとしても配信しました。

(2) 「connpass」の活用

ITエンジニアや学生などが会員登録しているIT勉強会支援プラットフォーム「connpass」に、参加チーム募集を公開しました。connpassの活用により、他のIT関連のサイトにも募集情報が掲載されました。

(3) フルカラー新聞広告

福島民友新聞社7月23日付の紙面に、フルカラー全5段の募集広告を掲載しました。

(4) 大学、専門学校への協力要請

ハッカソンへの参加実績がある首都圏、仙台圏、県内の大学や専門学校などに、ハッカソンの趣旨を説明する文書、募集チラシを送り、協力を求めました。

参加チーム募集チラシ

IT勉強会支援プラットフォーム
「connpass」

会場設営



(1) 快適なネット環境の提供

NTT東日本福島支店の協力で臨時の回線を敷設し、Wi-Fiによるインターネット接続環境を整えました。参加者たちがグループごとに割り当てたSSIDを使い、ストレスのないアプリ開発ができました。

(2) 整備された配線設備

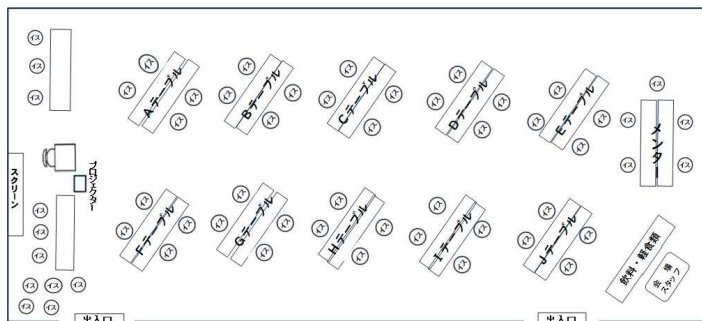
新電力福島協力の協力で、各チームごとのテーブルに約50台のパソコン1台ずつがテーブルに設けた電源の差し込み口を使えるように設定。電源コードなどを気にすることなく、会場内を移動できる環境を整えることができました。



(3) 新型コロナ感染防止対策

会場入り口には非接触型体温計を設置し、参加者が会場に出入りするたびに、自分の体温を簡単にチェックできるようにしました。各チームのテーブルには、一人ひとりが個別に使える除菌シートを設置し、希望者へのマスクの配布も行いました。

ハッカソン会場(研修室)



地域密着型ハッカソン(6次化・食の魅力発信)



国際ビューティー&フード大学校の学生たちが「ふくしま逢瀬ワイナリー」とコラボ。新作スイーツ発表

郡山市の国際ビューティー&フード大学校パティシエ学科の学生が特製スイーツを提供しました。2日間にわたり、「スイーツタイム」を設け、「ふくしま逢瀬ワイナリー」の商品と県産果物を使った新作スイーツを学生たちが会場でプレゼンテーション。ハッカソン参加者たちがおいしさに心を和ませました。一日目はワインゼリーとクラッシュジュレ。二日目はリキュールを使い、パウンドケーキとマカロンなどを織り交ぜた焼き菓子。



【湖南高校そば部】

地元特産「湖南そば」の振興に取り組む湖南高校そば部の生徒さんたちが修練を積んで磨いたそば打ちの技を発揮した手打ちそばを提供。プレゼンテーションでは部活動、湖南そばの魅力をハッカソンの参加者にPRしました。



【副賞に圏内17市町村の特産品】

優れたアプリ開発で入賞した各チームに贈る副賞として圏内17市町村の特産品セットを贈った。特産品の選定は、福島県観光物産館の協力を得て、多彩な品揃えを実現。参加者たちに、17市町村自慢の特産品を持ち帰ってもらいました。



【参加賞に地元産トマトとナシ】

参加賞として贈ったのは、湖南町産のトマトの箱詰めと、郡山産のナシ。いずれも郡山市が品質、おいしさを誇る農産物として人気があり、郡山の食の魅力発信を図りました。

交流活動



【バーベキュー交流会】

プログラミングによるイノベーション、豊かな地域づくりを目指すITエンジニアや学生の皆さんが出会い、交流する場を提供。キャンプ場でバーベキューを楽しみ、会話が弾みました。



【キャンプファイヤー】

会場の「郡山市少年湖畔の村」の特長を生かし、キャンプファイヤーを楽しんでもらい、参加者同士の交流を深めてもらい、思い出を胸に刻んでもらいました。



【コンサート】

郡山市湖南町横沢地区の全世帯に案内状を配布し、アコースティックデュオ「インザウインド」のコンサートを開催。ハッカソン参加者と地元住民が交流する機会となりました。



【手作り料理で交流】

郡山市湖南町の地域づくり団体「ぐるっとk湖南・伝承会」の女性会員たちが真心のこもった手作り料理で参加者たちをもてなしました。

【プレゼンテーション一般公開】

9月3日付の福島民友新聞広告でプレゼンテーション公開を告知。参加者と地元住民の交流の契機を目指しました。

郡山市湖南町横沢地区の全世帯に配布した案内文書

プレゼンテーション・審査・表彰式



「ハッカソンキャンプin猪苗代湖畔」で、2日間にわたるアプリ開発に挑戦した10チームのメンバーと、各チームをサポートしたメンターたち



1チーム5分間ずつのプレゼンテーションでは、各チームのメンバーたちが知恵を出し合って制作したアプリの成果が披露されました。会場は力強いプレゼンテーションで熱気にあふれました。湖南町横沢地区の三沢利勝区長をはじめ、地元住民の皆さん、IT企業の関係者が会場を訪れ、プレゼンテーションに目を見張りました。



品川萬里市長が全10チームのプレゼンテーションに耳を傾けました。参加者が、地域づくりへの貢献を目指してアプリ開発に励んだ成果を高く評価。「こおりやま広域圏」に目を向け、プログラミングに挑戦した熱意に感謝の言葉を述べ、参加者たちと交流しました。



審査員は、福島県情報産業協会顧問の内藤清吾さん、NTT東日本郡山営業支店長の一井朋和さん、ふくしま逢瀬ワイナリー代表理事の河内恒樹さん、福島民友新聞社取締役制作局長の竹田浅昭さんが担当しました。審査員代表の内藤さんが講評を述べました。



表彰式では、優秀チームに、それぞれ「日本マイクロソフト賞」、「福島県情報産業協会賞」、「NTT東日本福島支店賞」、「公益財団法人三菱商事復興支援財団賞」、「福島民友新聞社賞」を贈り、各チームの健闘をたたえました。

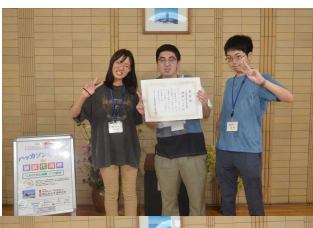
プレゼンテーション(学生の部)

1チーム5分間以内で、2日間にわたって取り組んだアプリ開発の成果を発表してもらいました。発表内容の骨子をご紹介します。



チームはるまき こおりやま広域圏観光スポット写真まとめサイト

こおりやま広域圏の観光スポット、観光資源を写真をメインに、短めの文章で紹介する。観光スポットに行った人や地元住民、写真を載せたい人など、それぞれ自分が撮影した写真も掲載し、紹介できる。同じ観光スポットでも四季の風景や異なったアングルの写真など何枚でも掲載でき、より魅力発信ができる。
所属:国際情報工科自動車大学校 福島情報産業協会賞



湖畔Lab 福島仮想住民権

地域外からのコミュニティの力を活用する「福島仮想住民権」アプリ。ふるさと納税をした県外の人を対象に、「福島仮想住民権」を発行。所有者はコミュニティに参加できる。アプリでは所有者相互の情報共有、コミュニケーション、返礼品などの生産者とのコミュニケーションができる。
所属:東京電機大学大学院 三菱商事復興支援財団賞



永井五色 こおりやま広域圏共有の場

災害時の相互支援、地域連携が重視される中、災害状況や危険な場所など住民が手軽に共有できるアプリ。「避難情報」「マップ」「投稿」の三つの項目を設け、地域住民が投稿した災害関連情報をマップや避難、災害情報に反映する。ニュース報道にも提供できるシステムをつくる。
所属:福島県立テクノアカデミー郡山 NTT東日本福島支店賞



Wiz_Girls こおりやま広域圏アラート

災害時の17市町村の相互支援、備蓄や避難所の相互利用に貢献。親しい人の安否や避難状況を相互に表示し、避難誘導に役立てる。位置情報をもとに近くの避難所の場所や収容状況、備蓄情報が確認できる。親しい人の状況を「助けが必要」など三段階で相互に通知し、安否を確認。防災マニュアルやチェックリストも掲載。
所属:国際情報工科自動車大学校 日本マイクロソフト賞



チームサブリカント キッズケアネット

「地域SNS」を活用し、子どもたちを守る地域のつながりを形成するアプリ。匿名性、安全を確保しながら、タイムラインを中心に投稿。投稿者マイページを設け、児童相談所などの行政も加える。対応の緊急性などによって投稿マークを色分け。子どもの声に耳を傾けよって、子どもを支援する大人の社会貢献も可視化する。
所属:国際情報工科自動車大学校 福島民友新聞社賞

プレゼンテーション(一般の部)

1チーム5分間以内で、2日間にわたって取り組んだアプリ開発の成果を発表してもらいました。
発表内容の骨子をご紹介します。



外来カミキリバスターズ 外来カミキリバスターズ

外来カミキリムシが拡大し、果樹の被害や生態系への影響が懸念。外来カミキリを「見つける目」で、子どもが使えるアプリ。駆除に必要な「報告」「判別」「共有」の機能を設け、スマホで虫の写真を撮ると、外来カミキリをAIで判別、共有。外来カミキリ判別ボックスは虫を入れると、センサーで感知し、AIが判別しアナウンスが流れる。
所属:福島コンピューターシステム 三菱商事復興支援財団賞



スクラパンチ いなわしろ こなん

湖南町の観光資源、景観資源の魅力をアピールし、観光地として発信しながら、観光客誘致につなげるアプリ。魅力ある湖南町のお店、イベント、景観、湖南そばなどを写真などで紹介しながら、詳細な情報を取得できるシステムを構築。

所属:シンプレクス 福島民友新聞社賞



カラフル☆トメイトーズ 湖南町農業支援ぶくろ

湖南町の農家取材をもとに、新規就農者とベテラン農家などをつなぐアプリを開発。ベテラン農家に農業のノウハウなどを話してもらい、音声入力としてデータ化して、アプリで共有しながら、蓄積する。新規就農者や農業の担い手も農業への取り組みなどを入力して共有し、コミュニケーションを深めて世代間交流を進める。

所属:福島情報処理センター 日本マイクロソフト賞



エフコム こおりやま広域圏情報発信

広域圏の多彩な情報をもとに、AIを活用し自動で記事を作成し、より多くの広域圏の魅力発信に貢献できる。広域圏内イベントなどの日時や場所、内容を入力すると、情報をもとに、AIがより多くの情報を検索。生成AIが記事を生成する。一部の地域だけに限定されていた地元の魅力などの情報も、より幅広く発信できるようになる。

所属:エフコム ふくしまプログラミング推進協議会賞



チームピア 若者人口減少に対する打ち手

地域の事業者を増やし、英語を軸に若者のスキルアップを図る「インバウンドレジャー予約×外国語コミュニケーション機会」を軸にアプリ。外国人の関心が高いツアーを企画し、若者がアルバイトとしてツアーをサポートし、コミュニケーション。アプリで外国人のツアー参加をアピールしながら、日本人アルバイトの求人も掲載する。
NTT東日本福島支店賞

参加者アンケート結果

参加チームのメンバー32人からアンケートの回答を回収しました。

・Q1 「ハッカソンキャンプin猪苗代湖畔」に参加して良かったですか。(1つ回答)

「良かった」が24人(75%)、「まあ良かった」4人(12.5%)となり、満足度が高いハッカソンを実現できた。「普通」が3人(9%)、「あまり良くなかった」が1人(3%)となった。

・Q2 「こおりやま広域圏」や福島県の地域づくりに関心が高まりましたか。(1つ回答)

「高まった」が50%、「まあ高まった」が37%となった。ハッカソンによって地域づくりにへの関心が高まったことが示された。「今までと同じ」が12%だった。

・Q3 ハッカソンの会場設営や運営は、良かったですか。(1つ回答)

「良かった」が59%で、「まあ良かった」が25%となった。参加者の大半が会場設営や運営に好印象で、快適にアプリ開発に取り組むことができたことが示された。「普通」が6%、「あまり良くなかった」6%、「良くなかった」3%になり、反省点を検証する必要がある。

・Q4 今回のような地域密着型ハッカソンには、賛同できますか(1つ回答)

「賛同できる」が78%を占めた。「まあ賛同できる」が19%。地域の人とのふれあいや地元食材の食事提供、地元特産品の副賞と参加賞の贈呈、地元産品のオリジナルスイーツなど、「地域密着型」が支持された。「どちらとも言えない」は3%だった。

・Q5 今回のハッカソンは、自分自身にとってプラスになりましたか。(1つ回答)

「プラスになった」が78%を占めた。「まあプラスになった」が18%となった。参加者たちがハッカソンへの参加を通じて、学んだことが多かったことが分かった。「どちらとも言えない」は3%だった。

プログラミング特別セミナー / プログラミング合宿

郡山市の国際情報工科自動車大学のチーム「WiZ_Girls」が学生部門で日本マイクロソフト賞に輝いた。同チームへの”副賞”とともに、デジタル人材の育成を目指しました。

講師：日本マイクロソフト株式会社

Asia Global Blackbelt AI GBB Technology Specialist

大森 彩子 さん

<プログラミング特別セミナー・ハンズオン>

11月11日・国際情報工科自動車大学校



◇セミナーテーマ◇

ChatGPTの衝撃、生成AIが拓く未来
～ITに関わってゆく学生のみなさまへ～

◇ハンズオンテーマ◇

生成AI利用ことはじめ～チャットボット作成体験～



<プログラミング合宿>

11月11日～12日・グランデコホテル



◇エンジニア座談会◇

テーマ「エンジニアとAI」

出席者：大森 彩子 さん(日本マイクロソフト株式会社)
薄井 彩花さん(国際情報工科自動車大学校2年)
名木 菜緒子さん(国際情報工科自動車大学校1年)
大久保 仁 代表(ふくしまプログラミング推進協議会)

【大森 彩子さんに聞く】

- ・困難に直面した際、どう対処してきたか
- ・これまで挑戦してきたことで印象が残っていること
- ・外資系企業で働くメリットは何ですか。
- ・理想のエンジニア像と目指すべきキャリア

【AIの未来とエンジニア】

- ・エンジニアを目指すためのAI技術の学習方法について
- ・AIの将来性と、想定される私たちの生活の変化
- ・AIとセキュリティの関係
- ・AI時代において、エンジニアがどのような道を進むべきか。



福島民友新聞9月9日付・第二社会面



「ハッカソンキャンプin猪苗代湖畔」ポスター



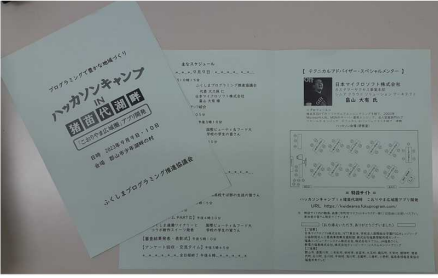
ヤフーニュース



福島民友新聞ニュースサイト「みんゆうNet」



福島民友新聞9月12日付・三面



「ハッカソンキャンプin猪苗代湖畔」当日配布パンフレット



福島民友新聞11月12日付・二面



福島民友新聞11月13日付・一面